

腎臓内科

【スタッフ】

坂井 尚二 中村 亜輝子 千葉 弘胤（4月～9月） 田中 洋澄（11月～）

【概要】

スタッフは久留米大学腎臓内科の人事異動で、浦江憲吾医師が転任し千葉弘胤医師が着任しました。吉水秋子医師が九州大学第二内科のローテーション入りのために転任となり、前年度より1名減の3名体制となりました。年度途中の9月に千葉医師退任に伴い、11月より田中洋澄医師が大学人事により着任しました。途中2名体制の期間は非常に厳しい運営でしたが業務に支障なく診療を継続できました。

診療活動は腎疾患を中心とした専門内科として診療活動を行っていますが、専門内科のない呼吸器疾患や糖尿病のコントロールや治療、多臓器にわたる重症疾患に対して救急対応など、総合内科としての治療にも多く担当しています。

日常診療だけでなく教育面では、研究会・学会での発表を積極的に行い、研修医の指導にも力を注いでいます。糖尿病をはじめ生活習慣による疾患が増加しており、高齢社会を反映して高齢者の慢性腎不全が増加しています。そのため福祉介護支援の重要性が増し、腎代替療法の血液透析では福祉介護スタッフによる通院援助など、在宅治療であるCAPD（腹膜透析）では訪問看護師の協力と多職種連携し、地域で医療を看る体制づくりを行っています。慢性腎臓病（CKD）の治療については全身疾患の一環として診るよう心がけており、早期からの予防のためには、患者様やかかりつけ医への啓蒙活動も腎臓内科の重要な責務と考えています。そのためにも病診連携に力を入れ、紹介の患者様には個別の栄養指導を受けていただき満足度向上を図っています。実際の診療の場では看護師、臨床工学技士、栄養士などのコ・メディカルとの協力を密にして高品質な治療をめざして行っています。

平成27年11月に新館にオープンした透析センターでは、規模の拡大だけでなく設備更新を行い、個々の患者様の病態に応じた治療ができるようにしています。

入院・外来維持透析の他に、種々の分野で必要となる急性血液浄化療法に対しても透析センター並びにICUにて積極的に対応しています。

【診療】

外来は週4日（火・水・金曜日午前、木曜日午前・午後）ですが、急性疾患や緊急時、院内外からの紹介には常時対応しています。

透析センターでは、32床を月・水・金曜日に午前・午後の2クール、火・木・土曜日は午前みの1クールで運営し、常時約90名の患者様が血液透析を受けています。また総合病院としての使命で他の透析施設から各科に入院となる患者様は積極的に受け入れています。整形・脳疾患はもとより、心・下肢血管のインターベンション治療目的の循環器疾患の患者様が増加しています。在宅治療である腹膜透析（CAPD）の導入も行っています。腎疾患はできるだけ腎生検を施行し、EBMに基づいて専門的治療を行うようにしています。IgA

腎症に対しては症例により治療法である扁桃腺摘出術、ならびにステロイドパルス療法を積極的に行い、腎炎の改善、寛解に取り組み、寛解例をはじめ良好な成績をあげています。最近では高齢者の急速進行性腎炎の代表である ANCA 関連腎炎が増加傾向にあります。遺伝性疾患である多発性嚢胞腎 (ADPKD) も新たな薬物治療 (バズプレッシン V2 受容体拮抗薬：トルバプタン) に取り組んでおり、腎嚢胞の増大を抑制し腎機能障害の進行抑制に取り組んでいます。慢性腎不全の予防や治療に密接な関連のある高血圧、心不全、糖尿病の治療は、専門医との連携を図りながら特に食事治療の重要性を考え栄養指導、自己管理指導を保存期より積極的に行っています。患者様だけでなく紹介先の先生方の期待に応えるよう努めています。末期腎不全の腎代替療法 (腎移植、血液透析、腹膜透析) については、透析センターにて腎代替療法選択外来で対応し、個別に説明しています。慢性腎臓病 (CKD) の早期発見には、検診での尿異常など一般医と腎専門医との連携が必要です。特に高齢者においては潜在的に腎機能低下を有しており、わずかな誘因で急速に腎機能低下を招く危険性があります。早期診断治療には、今後とも病診連携を深めて治療にあたっていく必要があると考えています。

【入院患者統計】 (平成 29 年度)

病 名	慢性腎不全	101
	急性腎不全	8
	慢性腎炎・ネフローゼ症候群	28
	電解質異常	7
	尿路感染症	11
	心不全	9
	糖尿病・糖尿病腎症	19
	シャントトラブル	111
	呼吸器感染症	49
	その他	44
	総症例数	387
治 療	内シャント造設術	51
	CAPD 手術	4
	PTA	88
	経皮的腎生検	13
	血漿交換療法	1
	血球成分除去療法	26
	腹水濾過濃縮再静注法	30
	持続的血液透析濾過	10
	総件数	223

【業績集】

<学会・研修会>

開催 年月日	演 題 名	演 者	共同演者	学 会 名	場 所
2017.4.20	①当院における浮腫治療の現状とサムスカの使用経験からの考察 ②腎臓から考える心不全	坂井 尚二 (座長)		地域医療研修会 よくわかる心腎 関連セミナー	下関市立 市民病院
2017.6.15 ~6.18	低エネルギー外傷で両側 腱断裂を来した症例	中村亜輝子 ¹⁾	浦江憲吾 ¹⁾ 吉水秋子 ¹⁾ 坂井尚二 ¹⁾ 吉村潤子 ¹⁾ 島田英二郎 ²⁾ 山下彰久 ²⁾	第 62 回日本 透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ 横浜
2017.6.15 ~6.18	ニプロ社製 RO 装置 WRO システムを使用しての 水質及び熱水消毒温度 についての検討	佐々木毅 ³⁾	若尾泰子 ³⁾ 藤田忍 ³⁾ 前田友美 ³⁾ 鈴木雄揮 ³⁾ 坂井尚二 ¹⁾	第 62 回日本 透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ 横浜
2017.6.15 ~6.18	シャント管理加圧マッ サージ法の取り組み	海野智枝 ⁴⁾	松本和美 ⁴⁾ 市川智春 ⁴⁾ 川満利恵 ⁴⁾ 木村裕子 ⁴⁾ 佐々木毅 ³⁾ 中村亜輝子 ¹⁾ 坂井尚二 ¹⁾	第 62 回日本 透析医学会 学術集会・総会	パシフィコ 横浜
2017.7.12	高齢者不眠診療の落とし 穴～せん妄と転倒を 増やさない薬物選択～	坂井 尚二 (座長)		不眠症を考 える会 in 下関	東京第一 ホテル下関
2017.10.29	偽性アルドステロン症 による低カリウム性周 期性四肢麻痺を呈した 一例	立田穂那美 ⁵⁾	中村亜輝子 ¹⁾ 江口 透 ⁶⁾ 野村 裕 ²⁾	日本内科学 会九州支部 第 319 回 九州地方会	福岡大学 8 号館

腎臓内科¹⁾ 整形外科²⁾ 臨床工学部³⁾ 看護部⁴⁾ 研修医⁵⁾ 糖尿病内分泌代謝内科⁶⁾